

令和2年度 第2回白馬高等学校学校運営協議会 議事録（概要）

1 日 時 令和2年（2020年）11月16日（月）13時30分～15時30分

2 場 所 長野県白馬高等学校会議室

3 参加者 委員10名（全員出席）
この他、長野県教委高校再編推進室より2名
白馬・小谷両村関係者4名
白馬高等学校職員4名



4 次 第

- (1) 開会の言葉（関教頭）
- (2) 長野県教育委員会あいさつ（上原主幹指導主事）
- (3) 白馬高等学校長あいさつ（臼井校長）
- (4) 報告事項

① 学校の現状報告

- ・資料（表紙およびp. 5～p. 11）について報告（臼井校長）
- ・地域協働推進事業について報告（資料p. 12～p. 16）（浅井教諭）

② 寮運営に関する報告

- ・寮運営に関する寮生・保護者アンケート結果報告（松澤支援係長）
- ・島根県広島県3校視察報告（柴田支援係局長補佐）

(5) 質疑・応答

<白戸議長>

○今回は特に寮運営の問題を中心に議論したい。意見・質問をお出しください。

<下川委員>

○アンケートで支援事業を見直した方がいいとあるが具体的には何をさすのか？

→（松沢係長）保護者からは情報が少ないと指摘を受けている。今後、学校のオクレンジャー他、SNS等も活用して発信していきたい。

<加藤委員>

○視察されたのは地域に根差した学校らしいが、集団に馴染めない生徒も入ってきているのか？

→（風間小谷副村長）中高一貫校で地元生を確保する特別選抜制度があり、学力的には開きのある子を預かっている。県外生で地域に馴染めなかった子もいると聞いている。

<中村委員>

○資料にあるY高校の寮利用料月額33,000円とあるが、町はどれだけ出費しているのか？

→（松沢係長）個室であり、個別の光熱費を別に保護者が負担。町は6,600万円の予算を組み、約4,000万円は県などから。管理スタッフは県の雇用である。

<岸委員>

○修学旅行の代替として村内でこれだけ学習ができたり、和田社長の講演を聞いて白馬の観光業で働く意味を学ぶことができたりなど、素晴らしい環境がここにあることを改めて確認できた。

SDGsの出前授業を地元の小学校4年生に行うとのことだが、これは何年生が行くのか？

→（関教頭）1年生の予定。これまでの3年生中心から、1年生へバトンタッチしていく。

<岸委員>

○コロナとの関連かも知れないが食事の不満として「野菜が少ない」とあるがカロリー計算表とか出ているのか？

→（柴田局長補佐）カロリー計算表は業者から出されている。

<白戸議長>

○県のサポートは視察された高校に特別なのか、あるいは県としての何らかの施策があるのか？

→（柴田局長補佐）島根県には30数校に寮があり、特に山間地域など8校に対する支援がある。人数によって3つのランクがあって、最大650万円の支援がある。長い歴史の中でやられているようだ。

→（風間小谷副村）8校は人口減少地域。平成23年度から魅力づくりに取り組み補助金制度ができた。先ほどの4,000万円も、県としての補助金は450万で残りは地方創生の国費から人件費な

どが出ている。コンソーシアムなどの地域との連携制度を設けてやっているのが8校だ。

<白戸議長>

○地元の子ども・若者を定着させるという施策を県レベルでもやっておられるということですね。

<伊藤委員>

○今回は寮問題がテーマだが、アンケートからは寮への不満は見えにくい。ここに出てきていない問題があるのでは？そこを共有していかないと前に進めないのでは。

→（松沢係長）保護者アンケートではその他の欄にたくさんの意見が書かれていた。「情報が少ない」「連絡が遅い」という内容が多かった。

<伊藤委員>

○今の話を聞けば、あらためてここで寮問題を議論するまでもないのでは。情報を早くきちっと出せば解決するみたいに聞こえる。

<白戸議長>

○寮を維持するためのお金の問題とかを含めてということですかね。

<伊藤委員>

○予算の関係なら行政がやるべき問題では。居場所を持たない子にどのような手立てをしているのかと、視察に同行したが、里親制度などは思ったより活発ではなかった。生徒は部活で忙しいという話だった。目的意識のない生徒には、軽音や八方太鼓、SDGs、スキーなど部活的なものを提示してあげて、目的意識を持てるようにしてあげてはどうか。

<白戸議長>

○生徒が目的を持っていないというのは白馬のことか？

<伊藤委員>

○寮の関係者から目的意識のない子が多いと聞いている。

<白戸議長>

○白馬の生徒はある種目的を持ってきているのかなと感じていた。

<臼井校長>

○生徒は、入学面接時には多種多様だけれどみんな目的を持っている。中には、スキーをやりたいと思っていたが、やってみるとレベルが違い過ぎてマウンテンバイクに切り替えて頑張ったという生徒もいる。そういう生徒がほとんどだが、一部に自分のやりたいことが定まらない生徒もいるということだ。

<岸委員>

○目的意識のある子もそうでない子もいて、学力差があるのでは？

<臼井校長>

○極端な差がある。しかし、大きな学校ではないので、習熟度別や少人数クラスで対応している。

<武田委員>

○国際観光科という大きな枠ではいろんな子が来る。美麻中も同様。学力の低い子のサポート員や部活の指導員を地域に声をかけてスクールパートナーとして募ってはどうか。多様な生徒に多様な保護者がいるので、その人たちが納得するような情報の出し方をしないと伝わらない。

<白戸議長>

○本質的な話に広がってきた。今後に向けては、一つは寮の問題だが、個別具体的な話題にしないと話ができない。二つ目は、国際観光科開設から5年が経過して、スタートした時の目的とどう違って来たかを見ていきたい。寮の問題も結果として出てきた話。三つ目は、この問題が白馬高校だけの問題ではないということ。村だけでなく県も含めて地域の高校をどうするのかという点も繋げて考えていきたい。このようなことを次は時間をもう少しとって議論したい。

<下川委員>

○p. 27 のまとめにあることは村として県に要望しているところだ。検討をお願いしたい。

<上原主幹>

○持ち帰らせていただいて、検討したい。

<白戸議長>

○残りの時間で、生徒から「断熱改修プロジェクト」の発表を受けます。

「白馬高校断熱改修プロジェクト」についての生徒報告（約 12 分）

発表者：1 年 B 組 太田琉斗、松井遥暉
断熱ワークショップの目的と方法、感想についてパワーポイントを使って説明。

【生徒たちへの質問と応答】

＜伊藤委員＞

○（作業の時のお弁当について）食べれば食べるほどエコになるというのはどういうことか？

→（生徒）土に帰る容器の使用、経産牛や余剰野菜を使用して環境に優しいため。

○寮の食事にも応用されるといいですね。

＜白戸議長＞

○そもそもどうしてこのプロジェクトに参加しようと思ったのか？

→（生徒）先輩たちの SDGs の取り組みは中学時代から知っていてぜひ進学して取り組みたいと思っていた。家が旅館業で、雪不足など環境の変化が生活に直結するので興味があった。授業で環境や断熱の話聞き自分でも何かできないかと考えた。

＜岸委員＞

○日本で断熱の意識が低いのは何故だと考えますか？

→日本は湿気の多い風土であることから、昔から風通しのよい家屋で、夏の涼しさを追求してきたため。

＜伊藤委員＞

○来年も断熱ワークショップをすれば、次々と教室が改修されていいのでは。

＜浅井教諭＞

○生徒は毎年入れ替わり、同じテーマの後継者という重荷なので、新たに SDGs を学び初めて自分たちの興味のあることを何かやってくれればと思っている。

.....

＜白戸議長＞

○生徒の皆さんありがとうございました。これで本日の協議会は終わりになりますが、最後に何かご意見ございますか？

＜中村委員＞

○支援係や学校の方でアンケートの結果をもう少し精査して欲しい。

＜白戸議長＞

○次回はできれば資料を事前配布して、会議の時間を確保する工夫をお願いします。

（6） 閉会の挨拶（関教頭）

次回は話し合いをメインに 2 月前半の開催を予定している。

